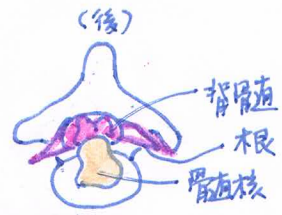


整形外科学：椎間板ヘルニア

41-081 第4・5腰椎の椎間板ヘルニアでみられないのはどれか。

1. ラセーグ徴候陽性
2. 疼痛性側弯
3. 膝蓋腱反射減弱 *L3-4 腰椎間のヘルニアでみられる。*
4. 下腿外側の触覚鈍麻
5. 長母指伸筋の筋力低下

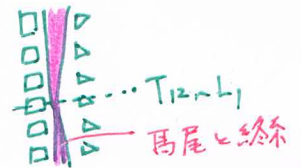


46-P-086 腰椎椎間板ヘルニアについて正しいのはどれか。

1. 椎間板の前側方突出が多い。 *後方 (前方には突出しにくく、また突出しても神経を圧迫しにくい)*
2. 第3・4腰椎間で最も多く発症する。 *4-5*
3. 第3・4腰椎間で生じると膝蓋腱反射が亢進する。 *減弱する。*
4. 第4・5腰椎間で生じると下腿三頭筋の筋力低下を認める。
5. 第5腰椎・第1仙椎間で生じるとアキレス腱反射が低下する。

47-P-087 腰椎椎間板ヘルニアについて正しいのはどれか。

1. 女性に多く発症する。 *男性*
2. 好発年齢は50歳代である。 *20~40*
3. 第4・5腰椎間で生じると前脛骨筋の筋力が低下する。
4. 第5腰椎・第1仙椎間で生じると足背の感覚障害が起こる。 *L4-5*
5. 第3・4腰椎間で生じると大腿神経伸展テストが陽性となる。



48-A-085 腰部MRIを別に示す。この画像で認められるのはどれか。

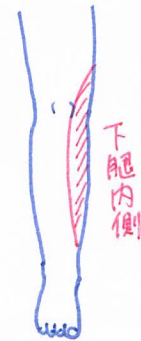
No. 5 (O 問題 85)



*首 腰椎椎間板ヘルニア
腰椎椎間部では、椎骨道が広いので、
神経線維性(末梢神経)の障害がおきる。*

*椎骨道の下端は
T12-L1である。*

<i>最も多い</i>	L3-4 (L4の障害)	L4-5 (L5の障害)	L5-S1 (S1の障害)
(膝反射)	膝蓋腱反射↓	(-)	アキレス腱反射↓
(筋力低下)	大腿四頭筋	前脛骨筋 長母趾伸筋 長趾伸筋	下腿三頭筋 長母趾屈筋 長趾屈筋
(感覚障害)			



*(テスト)
大腿神経伸展
テスト:陽性*

ラセーグテスト(SLR):陽性

1. 骨粗鬆症
2. 腰椎圧迫骨折
3. 腰椎すべり症
4. 後縦靭帯骨化症
5. 椎間板ヘルニア

50-P-091 頸椎椎間板ヘルニアについて正しいのはどれか。

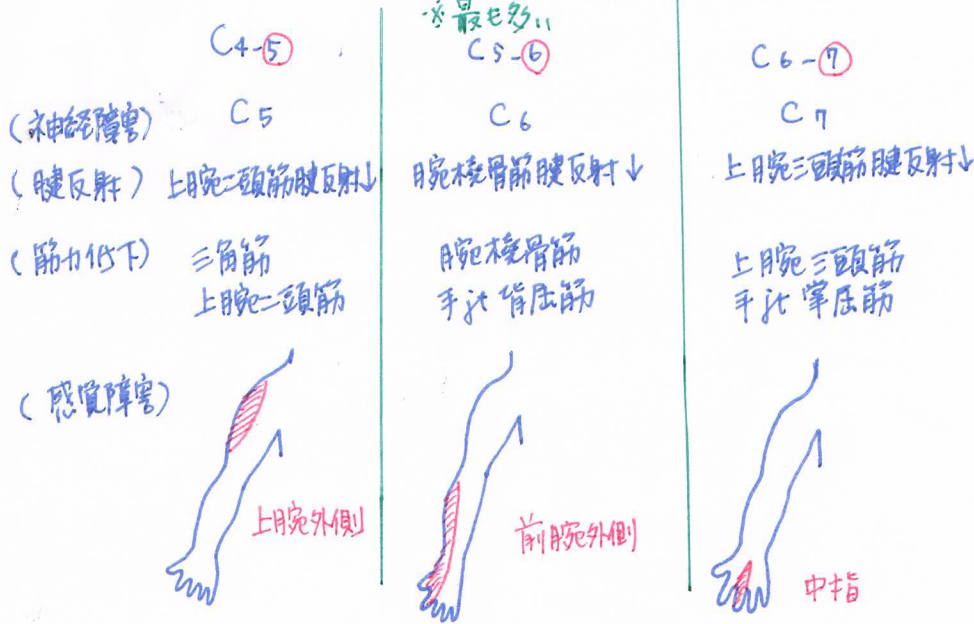
1. 女性に多く発症する。
2. 60~70代に好発する。
3. 下肢症状より上肢症状で始まることが多い。 *上肢のシビレや筋力低下から始まるのが多い。*
4. C6、7間の外側型ヘルニアでは腕橈骨筋反射が亢進する。
5. 座位で両肩関節を過外転すると橈骨動脈の拍動が減弱する。 → *wrightテストで腕、胸部出口症候群の片側性圧迫検査のテストである。*

頸椎椎間板ヘルニア

頸椎部には椎間板があるため、脊髄症状と神経根症状がみられる。

脊髄症状(後方ヘルニア): 障害部位以下の感覚障害、運動障害(下肢の軽性マヒ)、
下肢の腱反射亢進、病的反射出現、神経因性膀胱腸。

神経根症状(側方ヘルニア): 障害部位に一致したシビレや疼痛、感覚障害、
筋力低下、腱反射減弱



(テスト) Spurlingテスト, Jacksonテスト がある。